

エジプト19~20王朝

もともとエジプトでは長女が王位継承権を持っていたが、この頃になると男子が継承権を持つようになる。
セティー一世は次々に大掛かりな建築物を建造。カルナック神殿の大列柱室は134もの柱がそびえる。アピドスにも葬祭殿を建築。大変美しい壁画が有名。



ラムセス2世の第一王妃。大変愛され、女性でエジプト史上ただ一人神殿を建ててもらう。墓はエジプトで一番美しいといわれる。現在は閉鎖中。

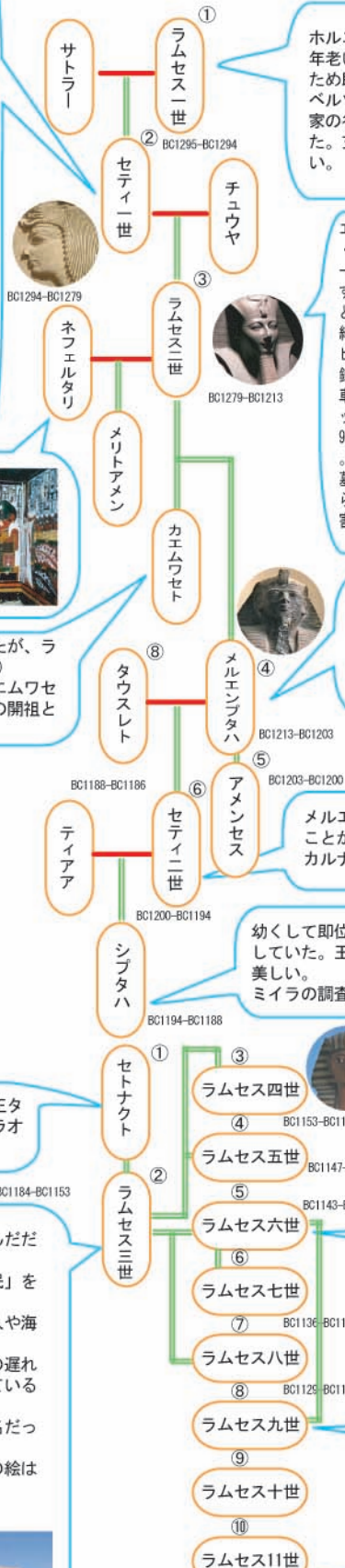
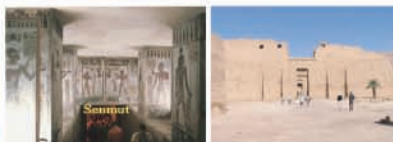


ラムセス2世に次の王に指名されていたが、ラムセスが長生きしすぎて先に死亡(´-`)。各地にある先王の建造物を修復。「カエムワセト修復せり」との碑文が残る。考古学の開祖といわれる。

ここから20王朝

どういう経緯で王になったか不明。先王タウスレトの時の大臣バイを追放しファラオになったという記録がある。

ラムセスという名前は偉大な先王にちなんだだけで、血縁関係などはない。ヒッタイトを滅ぼして勢いを持つ「海の民」を撃破。国土を守った。メディネトハブに葬祭殿を建築。リビア人や海の民との戦いが延々と記録されている。晩年、デルエルメディナの墓職人が給料の遅れを理由に歴史上初のストライキを起こしている。王家の谷にある墓は古代から開かれ、有名だった。墓に描かれている「盲目のハーブ弾き」の絵は「値千金」と評価されている



ホルエムヘブの盟友。年老いてから即位したため即位後2年で死亡。ペルソアニにより王家の谷で墓が発見された。玄室の壁画が美しい。



エジプト史上最大の建築王。アブシンベル神殿・ラムセウム・アメンホテプ3世が作ったルクソール神殿の拡張など、各地に巨大な建造物を残す。シリア方面で勢力を増していたヒッタイトとカディッシュで戦い、世界最初の平和条約を結ぶ。ヒッタイト、エジプト双方で、「圧勝」との記録があるが、実際は引き分け(笑)その時の戦車で戦う勇壮なラムセス2世のレリーフがカルナック神殿に残っている。92歳まで生き、100人の子供がいたといわれる。1995年王家の谷の調査で95室もの部屋を持つ墓が見つかった。ラムセス2世の王子の墓と考えられている。自身の墓も王家の谷にあるが、水害で破壊しており見学できない。



ラムセス2世の死後60代で即位。治世中に、シリアの反乱を鎮めたり、平和条約に基づき、ヒッタイトを援助したことなどが碑文に残っている。王家の谷の墓は古くから知られ、ギリシャ語やラテン語の落書きが残っている。



メルエンタハに次王に指名されていたが、なぜかアメンセスが即位。その後、やっと即位することができた。カルナックに神殿が残っている。王家の谷に墓があるが、壁画は通路の入り口に残るのみ。

幼くして即位したので、義母のタウスレトと大臣バイが実質的に支配していた。王家の谷に墓がある。玄室に壁画がないが、通路の壁画は美しい。ミイラの調査から、小児マヒで足を患っていたと考えられている。



建築用の石を手に入れるためにシナイ半島に遠征を行った。墓は古代から開いていて、家畜小屋に使われていた形跡がある。シャンボリオンも王家の谷調査中この墓をホテルがわりにしていたらしい。詳しい記録なし。



彼の時代、もはやエジプトの威光は衰退し、国土も縮小していた。墓はラムセス5世のものを拡張したもの。王家の谷の中で壁画の美しさから大変人気のある墓。ミイラは斧でずたずたにされていた。ただの泥棒にしてはひどすぎるので、恨みによるものではないかといわれている。



この時代になると神官が力を持ち、政治システムがぐちゃぐちゃ。王も首都テーベではなくデルタ地域に入り浸っていた。カルナックのアメン神殿には王と同じ大きさで神官が描かれ、王権の失墜が良く分かる。賄賂が横行し、エジプトは衰退の一途をたどる。



神官の力がますます増し、王権は完全に失墜。晩年は神官が大神官に任命した軍人あがりのヘリホルが自分の治世年を数えだす。(王になったと宣言したようなもの) 11世で20王朝は終わり。この後しばらく上下エジプトの分裂状態が続くことになる。